

開催中の企画展

地図でたどる台東区の変遷

令和6年3月22日(金)～6月16日(日)

土地の情報を伝える手段として、地図は古くから用いられてきました。現実の情報を抽象化・記号化して図に表した地図は、地理空間情報を効率的に伝えることができます。

台東区立中央図書館でも、江戸切絵図や明治の下谷区・浅草区の地図、地域の案内図など、様々な地図を所蔵しています。本企画展では、当館所蔵の貴重資料の地図を用いて、台東区の変遷をたどっていきます。



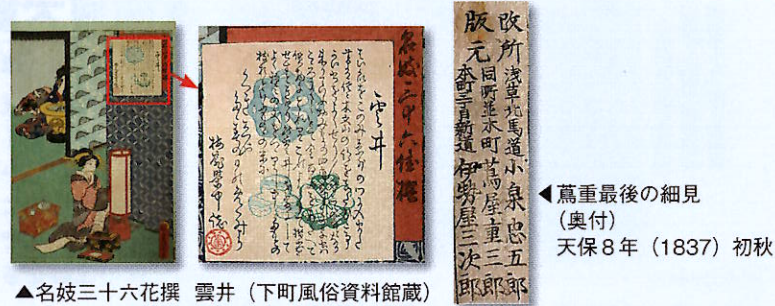
▲東都下谷絵図

吉原細見の世界Ⅲ 前編

6月21日(金)～9月16日(月・祝)

葛屋重三郎をはじめ、吉原細見を出版した板元(版元)の視点から、台東区を舞台にした江戸文化を紐解きます。浮世絵と吉原細見に関係が深い、板元の業績も追っていきます。

■ギャラリー・トーク、講演会開催



▲名妓三十六花撰 雲井(下町風俗資料館蔵)

▲葛屋最後の細見(奥付) 天保8年(1837)初秋

池・沼・堀

9月20日(金)～12月15日(日)

かつて台東区には、不忍池をはじめとして池や沼、堀が点在していました。しかし、その多くは市街地の整備や陸上交通の発達にともない埋め立てられていき、姿を消しています。浮世絵や和紙で昔の台東区の池・沼・堀をご紹介します。

■ギャラリー・トーク、歴史散歩開催



▲江都名所 上野不忍の池

吉原細見の世界Ⅲ 後編

12月20日(金)～令和7年(2025)2月16日(日)

平賀源内、十返舎一九など、江戸時代の吉原細見に登場する有名人物を中心に紹介します。

■ギャラリー・トーク等開催



▲吉原細見 里のをだ巻評 平賀源内著

地誌の見方・調べ方

2月21日(金)～6月15日(日)

江戸時代の地誌に注目して展示します。歴史学・書誌学の視点から読み解き、また台東区地域が記された部分を深掘りします。



▲谷中・池之端付近の略図(『再校江戸砂子 巻三』)

台東区立中央図書館 郷土・資料調査室

〒111-8621 東京都台東区西浅草3-25-16 TEL. 03-5246-5911 https://www.city.taito.lg.jp/library/index.html

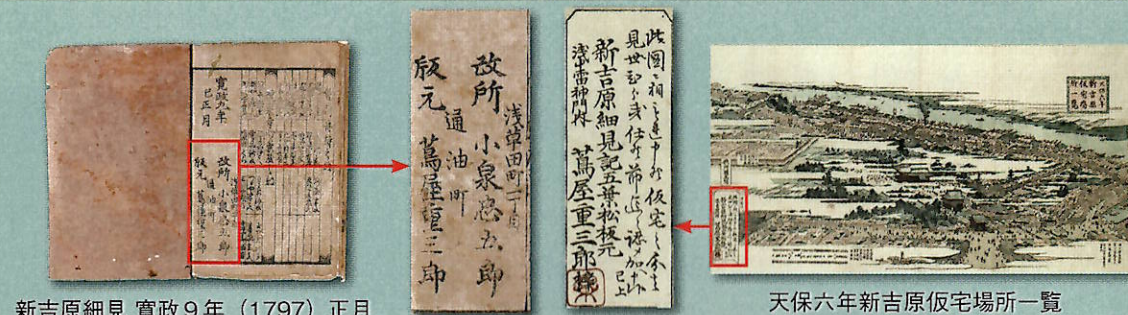
【開館時間】月～土曜日 午前9時～午後8時 日曜・祝日 午前9時～午後5時 【アクセス】■つくばエクスプレス「浅草」駅 A2出口から徒歩8分 ■地下鉄日比谷線「入谷」駅 徒歩8分 ■北めぐりん・南めぐりん 「生涯学習センター北」徒歩3分 「生涯学習センター南」徒歩3分 ■都バス「入谷二丁目」停留所 徒歩3分



郷土・資料調査室報

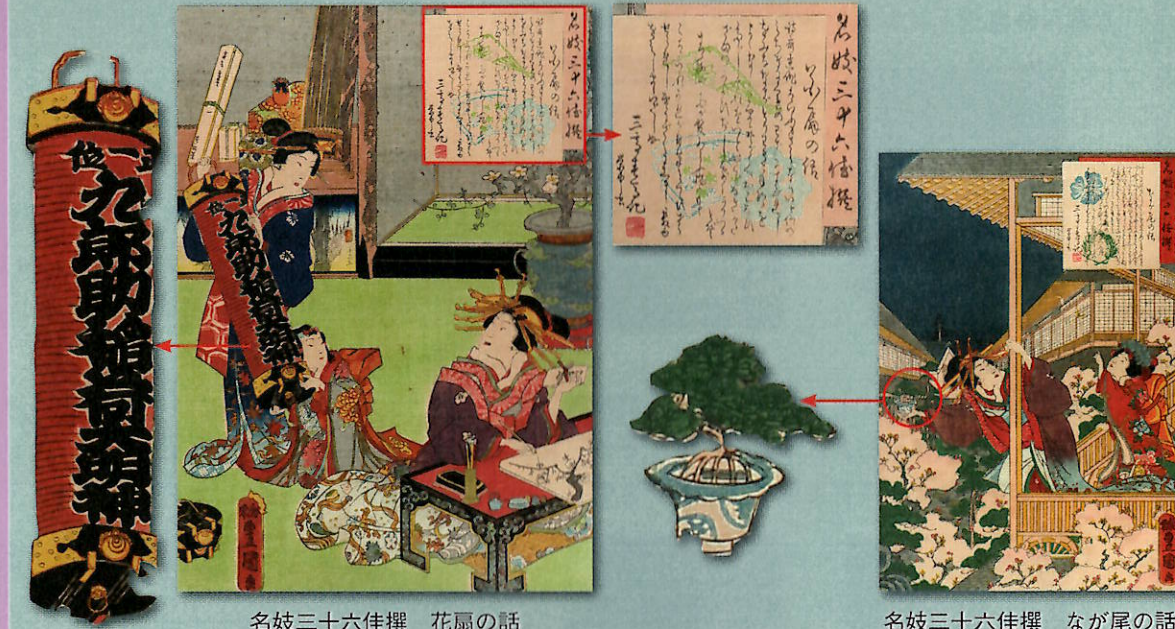
2024 令和6年3月 第14号

郷土・資料調査室の貴重資料を紹介するコーナー 書庫を繙く



新吉原細見 寛政9年(1797)正月

天保六年新吉原仮宅場所一覽



名妓三十六佳撰 花扇の話

名妓三十六佳撰 なが尾の話

今回は、来年のNHK大河ドラマに関連して、葛屋重三郎(略称:葛重)初代から四代までの資料をご紹介します。

初代葛屋重三郎(1750-1797)は吉原(現、台東区千束)で生まれ、はじめ大門近くで本屋を営んでいましたが、天明3年(1783)には通油町(現、中央区日本橋大伝馬町)に進出、狂歌本等の名作を次々と出版、浮世絵師の歌麿や写楽、作家の十返舎一九や曲亭馬琴を世に送り出しました。また初代・二代は、同じ本屋が吉原のガイドブック「吉原細見」を55年間独占して出版し続けるという、出版史上例を見ない業績を残しました。当館所蔵品のうち、寛政9年正月の細見は、奥付(本の最末尾に書誌事項を記した箇所)に「版元 通油町 葛屋重三郎」と印刷され、この年5月7日に亡くなった初代が最後に手掛けたものとなります。

二代目は天保4年(1833)に没しました。二代目が出版した細見の中には、初代が発掘した山東京山や十返舎一九が序文を寄せるものもあります。

三代目は「天保六年新吉原仮宅場所一覽」に、「新吉原細見記五葉松 板元 浅草雷門外 葛屋重三郎梓」とあるように、日本橋から台東区、今度は浅草雷門外(現、台東区雷門)へ戻ってきました。しかし天保8年冬には、長い間独占し続けた細見の株を他の本屋に譲り、同じ年に三代目も亡くなります。

四代目は、「諸問屋名前帳」(国立国会図書館蔵)の「地本草紙問屋」の項に、嘉永5年(1852)4月、

重三郎家業向勝手ニ付、次次郎江讓預済同廿四日申渡 浅草寺地中梅園院地借市右衛門店 葛屋 重三郎

と、地本問屋の株を他人(山田屋庄次郎)に譲る史料があります。細見に加え、江戸における書籍販売業から事実上撤退し、さらに少し前の天保末頃に富本節の稽古本の権利も手放すなど、四代目は事業縮小傾向にありました。

四代目の才能が開花したのは、経営ではなく文筆業でした。「名妓三十六花撰」は有名遊女を描いたシリーズで、歌麿の描く大首絵とも異なり、吉原にあった「九郎助稲荷」の提灯や細見の別名「五葉松」の鉢植など、遊女の日常を具体的に描写しています。「花扇の話」では初代葛重在世時の遊女「花扇」の逸話を詞書に記しています。この詞書の作者「三亭春馬(二代目)」は、四代目葛重のペンネームです。また「なが尾の話」では、四代目と同じ時代の遊女「長尾」の逸話を記しています。この浮世絵が制作された年に、四代目は亡くなりました。

以上の資料などを企画展「吉原細見の世界Ⅲ」で前後編に分けて紹介します。前編は本年6月21日(金)から開催する予定です。

郷土・資料調査室紹介

郷土・資料調査室所蔵のタウン誌

郷土・資料調査室では、台東区を中心に東京のタウン誌を収集・保存しています。

今回はタウン誌を大きく3つに分けてご紹介いたします。

また今回ご紹介する雑誌は、一部を除きバックナンバーを含め全巻揃っていますので、ぜひご活用ください。

東京を紹介

東京人

都市出版が発行する東京都を紹介する月刊雑誌。都市・文化・風俗・建築・文学・交通・地形・街並みなどあらゆるジャンルをテーマに取り上げています。



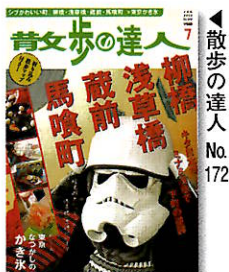
▲台東区を楽しむ本 No. 251



▲上野の杜の記憶 No. 444

散歩の達人

交通新聞社が発行する首都圏のタウン情報誌。グルメ・ショッピング・散歩スポット・カルチャースポットなど多岐にわたる内容を取り上げています。

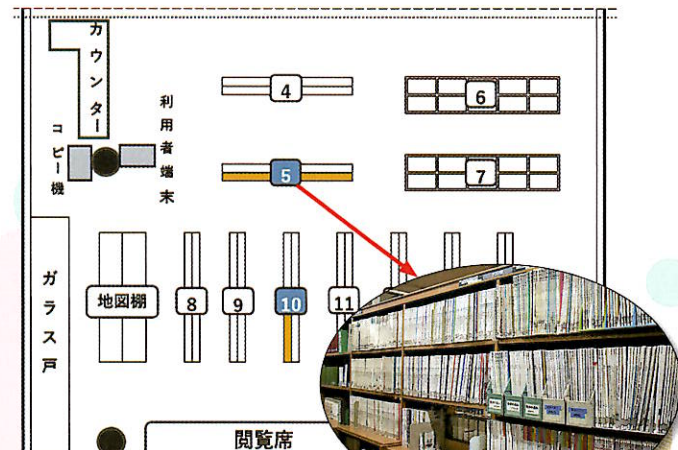


▲散歩の達人 No. 172



▲散歩の達人 No. 257

配架図

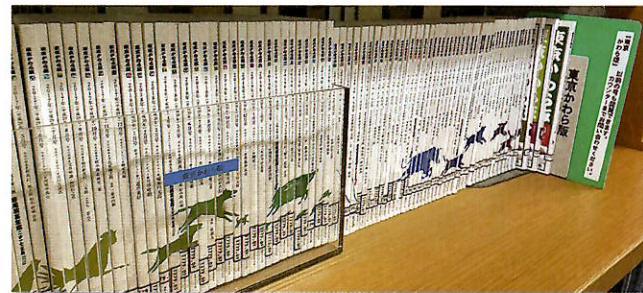


▲郷土・資料調査室 略図
黄色の棚にタウン誌があります。

台東区にかかわりの深い落語を紹介

東京かわら版

昭和49年(1974)創刊の日本で唯一の寄席演芸専門の情報雑誌。演芸情報は、寄席定席のほか、東京近郊で開かれる大小の会をとりまぜて毎月1000件以上、紹介しています。



地域(台東区)を紹介

うえの

昭和34年(1959)に創刊以来、文化的伝統の再発見を目指して、毎月発行。冊子はNo.732(2020年4月号)まで保存し、以降は発行元がデジタル化したことによりQRコード台紙のみ保存しています。

浅草

昭和45年(1970)4月の創刊以来半世紀にわたり、毎月発行。台東区浅草の伝統的な催し物・恒例行事などその都度季節を織り交ぜて伝えています。



「うえの」は赤色
「浅草」は黄緑色に
合冊製本しています。

谷中・根津・千駄木(谷根千)

地域雑誌「谷中・根津・千駄木」は昭和59年(1984)10月から季刊で創刊され、平成21年(2009)8月まで計94号を発行しました。地域の歴史や文化などの話題を掲載していました。



▲其の一



▲其の九十四

令和5年度の企画展

貴重資料から見る 台東区の道

3月17日(金)～6月11日(日)

人の行き交う場所の地面が踏みならされ、できた通路が“道”の起こりです。やがて道は、より往来が容易になり、物資の運搬が可能となるよう舗装・整備され、幅の広い道路へと発展していきます。道は人々の暮らしに不可欠な交通の要と言えるでしょう。

本企画展では、台東区立中央図書館で所蔵している浮世絵、絵はがき等の貴重資料から、台東区の様々な道をご紹介します。

イベント

◆図書館員によるギャラリー・トーク 4月16日(日)・5月28日(日)

関連企画

◆リーフレット配布(展示で取り上げられなかった道の説明)



▲(帝都名所) 上野広小路より上野公園を望む

関東大震災と復興 —台東区の大正・昭和—

6月16日(金)～9月18日(月・祝)

昨年は関東大震災からちょうど100年目にあたりました。大正12年(1923)9月1日に起こった大地震は、台東区内に大きな傷跡をのこしました。しかしながら、震災後の大正末年から昭和初年は、それ以前とは比べ物にならないほど発展を遂げました。

本企画展では、当館が所蔵する資料を用いて、関東大震災とその復興の軌跡をさまざまな角度から見つめ直しました。

イベント

◆トーク・イベント 「台東区と関東大震災」8月20日(日)

文化財記録映画「“小僧”がいた頃」上映と企画展解説 平野恵(当館専門員)

下町風俗資料館資料に見る関東大震災からの復興

近藤剛司(台東区立下町風俗資料館学芸員)

◆専門員によるギャラリー・トーク 6月25日(日)

◆同時開催講演会 「江戸の変化朝顔と台東区」7月8日(土) 平野恵(当館専門員)



▲(帝都大震災画報) 浅草公園花屋敷及浅草十二階之真景

台東区の橋

9月22日(金)～12月17日(日)

台東区には、隅田川にかかる橋、神田川にかかる橋、線路をまたぐ陸橋、地名になった橋等、多くの橋があります。橋は対岸への移動手段であり歴史とともに街並みを作ってきたもの一つです。

本企画展では、台東区立中央図書館で所蔵している浮世絵や地図、絵はがき、和本の貴重資料を用いて台東区の橋の歴史をご紹介します。

イベント

◆歴史散歩 ガイド：台東区観光ボランティアの会

南部エリア 10月27日(金)・北部エリア 10月29日(日)

◆図書館員によるギャラリー・トーク 10月1日(日)

関連企画 ◆橋カード配布(全10種)



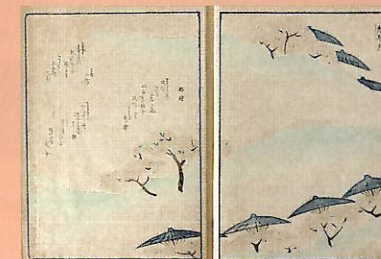
▲東京三十六景 まつち山

花見の日記

12月22日(金)～令和6年3月17日(日)

江戸時代の人びとは、春は梅・桜、夏は藤・朝顔など季節ごとに花見に出かけました。本企画展では、昨年没後200年を迎えた大田南畝(蜀山人)の「花見の日記」など花に関わる作品から、台東区の部分を抜き出し、南畝と花見について詳しく紹介しました。

あわせて上野、不忍池、谷中、浅草、吉原、隅田川といった、区内の花名所を描いた色刷りの和本や浮世絵を展示しました。



▲柳巷名物誌

イベント

◆講演会① 「日本人と花見」 1月20日(土) 小野佐和子(庭園文化史研究家)

◆講演会② 「大田南畝と花見」 2月18日(日) 平野恵(当館専門員)

◆専門員によるギャラリー・トーク 2月4日(日)